

✦ 「かいこしんぶん」を作ろう

1回目のカイコを育てた時は、見る事が中心だった。そこで、保育者は、2回目は見るだけでなく、大きくなったら触ったり世話をしたりして、カイコの観察をし、子どもたちの気付きを引き出したいと願った。子どもたちと相談して記事にし、

「かいこしんぶん」を作るようになった。

子ども：「カイコの赤ちゃん産まれたね。黒いね」と言いながら…虫眼鏡で見る。

保育者：「虫眼鏡だと良く見えるね。今度みんなで『かいこしんぶん』を作りたいけどどうかな」

子ども：「うん。作る。じゃあ絵を描くね」…虫眼鏡で観察しながら絵を描いている。

子ども：「見て。葉っぱのプチプチ、穴が開いてるの描いたよ」

保育者：「カイコが葉っぱ食べた部分だね。よく見たね」

子ども：「うんちもすごい小さい。ほら！！」

保育者：「本当だ。何かの粉みたいだね」

● ～別の日～

少し大きくなったカイコを手の平に乗せている子どももいた。

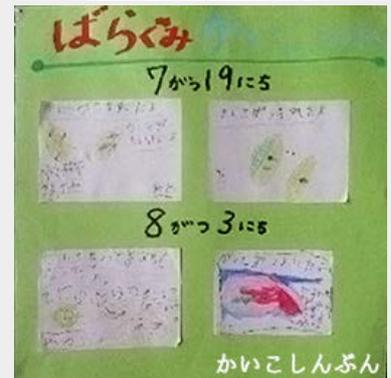
子ども：「先生。カイコが手にくっ付いて離れない」

子ども：「カイコ、糸が出ているよ」

保育者：「この白いのは糸なのかな。どこから出るんだろう？」子ども：

顔のあたりを探して、「ここだよ。モゴモゴしているもん」

と言って気付いたことを絵に描いたり文章で書いたりしていた。



✦ 他のクラスの様子

カイコが死んでしまったことを話し合った。餌にしていた桑の葉について、考えたり調べたりした。また、カイコを飼っている他の園に教えてもらったり、桑の木や葉を見に行ったり園の桑の葉と比べたりした。そして分かってきたことを話し合い、あまり触らないようにしたり、暑い所から涼しい所に飼育場所を移動したりした。その後もカイコをよく観察し、異変に気付くとすぐにみんなに知らせて話し合った。



✦ 考察

「かいこしんぶん」をきっかけに、子どもたちは虫眼鏡を使用して、カイコの細かい部分まで絵に描いたり、糞や食べた後の葉っぱの穴の中などの様子まで捉えて描いたりすることができた。また、実際に触れて見ることで、カイコのひんやりした感覚や手のひらにくっ付いてすぐに離れないなど、観るだけや図鑑などの情報からだけでは分からなかった生態を知ることができた。さらに、他のクラスのカイコが死んでしまったことに関する話し合いや「かいこしんぶん」を作った体験から、カイコへの興味を一層深め、カイコの命の大切さを実感しながら飼育することに繋がった。